

ひやくにんいっしゅぞうさんしょう

## #23 百人一首像讃鈔（百人一首像讃抄）

作者：細川幽斎（ほそかわ・ゆうさい 1534-1610）

刊行：延享3年（1746）


 解題

## ■ 内容

『百人一首像讃鈔』は百人一首の絵入りの注釈書で、細川幽斎によって著された百人一首の注釈書『幽斎抄』と菱川師宣による歌人の肖像絵、歌の意味を表現した歌意絵で構成されている。ただし、延享3年刊の絵師については諸説あり、『百人一首注釈書目略解題』（吉海直人編著）では、「菱川師宣風画」とされている。



[911. 147/3]

当館所蔵資料の巻末には「季吟撰」と記されているのみである。なお、北村季吟は『百人一首像讃鈔』と並ぶ百人一首古注釈書の絵入り本である『百人一首基箭（きせん）抄』の序を著している。

上方版と江戸版の二種類があり、上方版は延宝3年(1675)に小本形式で、江戸版は延宝6年(1678)に大本として出版された。当館所蔵資料の巻末には京都の堺屋が出版元として記されており、「挿絵から「読む」百人一首—『百人一首像讃抄』の挿絵の論理と意味」（加藤次直著）では小本の系統として整理されている。また、小本や大本の系統以外にも異本や後刷本が多く存在し、序文に『基箭抄』の季吟による序を入れてある版本も見つかっている。

## ■ 作者

作者は細川幽斎。幼名万吉、元服して諱は藤孝と称し、剃髪して幽斎玄旨と号した。安土桃山時代の武将。三条西実枝より古今集秘事を受け継ぐほか、あらゆる学術芸能に通じた文化人である。

絵師は菱川師宣（1618?-1694）。本名菱川吉兵衛、晩年友竹（ゆうちく）と号した。江戸時代前期の浮世絵師であり、浮世絵版画の祖とされる。版本の挿絵・絵本、肉筆画の美人画・風俗画などを描き、「見返り美人図」等の作品がある。

撰は北村季吟（1624-1705）。名は静厚、通称久助、拾穂などの号がある。松永貞徳の直門で俳諧・和歌・古典研究を学び、古典の注釈書を数多く刊行した。

## 📖 本文を読む

<翻刻>

『百人一首像讃抄』上中下 片桐洋一解題・翻刻 国書刊行会 1975<版本文庫9>

※当館未所蔵 当館が所蔵している延享3年刊ではなく、延宝6年刊の複製。

<デジタル>

武庫川女子大学学術成果コレクション「百人一首像讃抄」

※延享3年刊、延宝6年刊ともに閲覧可能

## 📖 参考文献

田中宗作「百人一首古注の絵入板本について：像讃抄と基箭抄とを対象として」（『語文』no. 15 日本大学国文学会 1963）

※当館未所蔵、国立国会図書館デジタルコレクション（デジタル送信）で閲覧可能  
吉海直人「百人一首抄版本二種の翻刻と解題：幽斎抄と新抄と」（『国文学研究資料館紀要』no. 14 国文学研究資料館 1988）

※当館未所蔵、国立国会図書館デジタルコレクション（デジタル送信）で閲覧可能  
『百人一首注釈書目略解題』吉海直人編著 和泉書院 1999<百人一首注釈書叢刊 1> [911.14/146]

加藤次直「挿絵から「読む」百人一首：『百人一首像讃抄』の挿絵の論理と意味」（『総合教育センター紀要』no. 25 東海大学 2005） [Z051.3/73]

神作研一「歌書の刊・印・修—『百人一首像讃抄』の場合—」（『詩歌とイメージ』河野実編 勉誠出版 2013） [022.39/7]